

NEWS 310

Vol.40 令和3年9月号

NEWS 310（ニュース サド）は佐渡観光交流機構の会員様向けニュースレターです。佐渡観光交流機構は、会員様はじめ佐渡の観光に関わる様々な方々の意見を尊重します。ご意見、ご感想をぜひお聞かせください。また、観光 PR のための写真画像、映像、イベント情報等がございましたらご提供いただけますと幸いです。佐渡観光交流機構を今後ともよろしく願いいたします。

佐渡観光交流機構ホームページの「お知らせ」にて公開しております。（<https://sado-dmo.com/news/>）

◆8月の振り返りと今後の予定

いつも大変お世話になっております。佐渡の8月は、本来であれば、トップシーズンであります。7月時点では、8月の予約状況は、コロナ前と比較しても例年に近い予約が入っていましたが、7月末からコロナの感染が拡大し、首都圏や地方都市にも非常事態宣言等が発出されると予約をキャンセルが上回る状況となり、昨年に引き続きさみしいお盆となってしまいました。

上半期の佐渡の入込の状況ですが、去年同期よりは若干持ち直してはおりますが、コロナ前と比較して約半減となっております。参考までに長崎や熊本などの他の離島に状況を伺ってみました。コロナ前の約50%とどこも同じような回答でした。

このような状況下でも私たちは、アフターコロナに備えた取り組みを実践しております。特に重点 DMO に認定されてからは、直接国の補助事業等を獲得していけることからコンテンツの磨き上げや受入環境の整備に取り組んでおります。4月以降に取り組んでいる事業では、島内の多様な関係者で連携し、新たな滞在スタイルの確立を図る域内連携促進事業やこの後、採択予定の既存観光拠点の再生・高付加価値事業による関係人口の創出と二次交通の実証実験などを行う予定となっております。

また8月は、学生さんが夏休みの時期ということもあり、当機構でも高校生や大学生の職場見学やインターンを受け入れています。将来を担う若者に少しでも社会に出たときに参考になればと考えています。

いよいよ新潟県でも9月3日から県独自の非常事態宣言が発出されました。良い天候が続くシーズンに皆様には、大変ご不自由をおかけしますが、ご理解ご協力を賜り、せっかく自粛するならばしっかりと抑え込んで、来るべき復活の時期に備えたいと考えております。

（専務理事 祝）

◆インターンの受入を行っております

高崎経済大学3年生の内山直紀さんが2週間、インターンシップとして当機構で職務に当たってくださいました。修学旅行のコース案作成や両津港ターミナル内での旅行者へのヒアリング調査、中学生の職場体験学習への同行などを行いました。

インターンを終えて、「2週間を通して職員の皆さんの働きぶりを間近で見ることができたほか、事務所や訪問先で出会ったたくさんの方から、自分の将来を考える機会と刺激をいただきました。また、様々な活動を通じて佐渡にちょっと詳しくなることができましたし、さらに好きになりました。コロナの状況次第ですが、必ずまた佐渡に来たいと考えています。この2週間で出会った皆様、私と関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。」とお言葉をいただきました。

◆DANCYU レシピ試食会を行いました

今年度、観光庁から採択された「地域の観光資源の磨き上げを通じて域内連携促進に向けた実証事業」で現在島内で行っている「GIAHS 世界農業遺産から培った佐渡の食文化（酒・食）DX化事業」の一環で8月に尾畑酒造による「一週間の酒蔵体験

プログラム」を在住外国人を対象に今後の佐渡での滞在プログラムの可能性の検証を行いました。続けてイタリアン料理を佐渡の食材を活かして手軽に料理できる「料理人によるレシピ開発」を行い、島内の関係者や一般住民を対象に試食会を行いました。

その他、「佐渡の芸能を活かした滞在プログラムの構築」や「佐渡銀河芸術際モニターツアー」、佐渡のジアスポットとスマートフォンアプリと連動した「DX 化事業」などを今年度中に行う予定です。

本事業が観光庁から優良事例として選定され、10周年を迎えるジアスを軸とした新たな観光プログラム構築をDMOと民間事業者と連携をして行っていることが高く評価されました。（マーケティング事業部 佐藤）

◆エンジョイプランの新コースとして“明け方の「野生のトキ」見学ツアー”を企画しました

一度は絶滅した野生のトキですが、人口繁殖と放鳥で現在は約450羽近くまで確認されるまでになりました。

このコースは、観光関係団体の佐渡への視察旅行などに特別に組み込んでいたもので、今回一般の方にも参加できるように商品化いたしました。お客様の宿泊施設ヘタクシーがお迎えに上がり、トキガイドがご案内いたします。早朝の澄んだ空気の中、野生のトキの自然な姿が見学できる貴重な体験です。参加される方に「人とトキが共に暮らす島」を体感いただけたいと思います。（旅行事業部 中林）

◆新穂中学校の生徒と人材育成ツアーを行いました

新潟市、佐渡市と連携して行っているインバウンド受入整備事業「トキめき佐渡にいがた観光圏」事業の一環で、さどやニッポン株式会社を中心に新穂中学校の生徒たちが考える「SDG's」に沿った新穂地区でのサステナブルツーリズムの検証ツアーを行いました。

いままで観光地としてあまり光が当てていない新穂地区のスポットを生徒たちがどうやったら魅力を伝えられるのかを考え、各スポットの動画撮影をし寺社仏閣やスイーツのお店、田んぼアートなどを紹介しました。自分たちの住む地区にまだまだ魅力のある資源がたくさんあることなどを再確認し、たくさんの人に知ってもらおうことを考えるととてもいい事業でした。（マーケティング事業部 佐藤）

◆前浜中学校の職場体験の受入を行いました

8月30日、31日の2日間、前浜中学校の3名を受け入れ、課題解決型職場体験を行いました。彼らにお願いしたミッションは、「佐渡のひとマップを作ろう！」自分たちの興味のある分野を入口に、佐渡で暮らしこの島にリピーターを増やしている方を、家族や近所の方から聞き込みをしたり、インターネットからリサーチし、生徒一人が一人ずつ、インタビューしたい人を決めました。

事前にアポイントをとり、1日目は、実際に生徒の皆さんがインタビューを行い、佐渡での楽しみ方やとっておきのスポット、観光のお客様を呼び込む独自の工夫などを伺いました。また、その人のとびきりの笑顔の写真や店内の写真なども、生徒自身が撮影しました。

いごねり早助屋さんでは、特別にいごねりを巻く体験をさせていただき、また、山田屋釣り具屋さんでは、全国の釣り大会で3位になった際のパネルを見せていただいたり、佐渡の釣りに魅了され毎年山田屋さんを訪れている有名ミュージシャンの話なども伺いました。また、斎藤農園さんでは、特別にシャインマスカットの試食や、フルーツけずり各種の試食もさせていただき、この島で誇りを持って仕事をし、惜しみなく多くの方にその魅力を伝え続ける姿勢に、生徒の皆さんは心を打たれていました。2日目は、インタビューをもとに、観光で佐渡に来られるお客様が、「この人に会いに行きたい！」と思ってもらえるような、その方の生き様を紹介するようなマップを、パワーポイントを使って作成しました。このあと、9月末、10月中旬と、全部で4校の中学校を受け入れ、最終的に、相川地区、両津地区、国中地区、南佐渡地区のひとマップが完成します！どうぞ楽しみにお待ちください。（旅行事業部 斎藤）